



## 奈良県立医科大学眼科ニューズレターVol. 18

### ご挨拶

教授 緒方奈保子



皆様は今年1年間、いかが過ごされたでしょうか？

平成から令和に変わった記念すべき年でした。10月22日即位礼正殿の儀はテレビライブ中継でしっかり見ました。新しい歴史が紡がれて行く瞬間であり、日本の長い歴史の継承を感じる厳かな儀式でした。

残念だったのは沖縄首里城の焼失でしょうか。テレビニュースを見てびっくりしました。歴史が消えてしまったような、なんとも言えない悲しい思いが致しました。今年4月にはパリ・ノートルダム大聖堂の火災がありました。これも驚きのニュースでした。9月にEURETINAでパリを訪れましたが、一部はまだ焼失したままの状態のようで、復旧にはかなりの時間がかかるものと思われました。新しい歴史が紡がれて行くのは未来があり希望が持てますが、歴史が無くなってしまうのは悲しいですね。ここ地元奈良には多くの歴史的遺産があります。大事にしたいという思いを強くしました。

最近の世間的な眼科の話題は、「近視」と「AI(人工知能)」でしょうか？2019年11月7日放送のNHK「クローズアップ現代」では、「近視の常識が変わる？」というタイトルで、大野京子先生（東京医科歯科大学）をコメンテーターとして近視に関する話題が取り上げられ、“光”が大事という研究結果が示されました。その中で当教室の研究結果も紹介されました。近視の問題だけでなく、“光”を十分に感じる事ができないとサーカディアンリズムが障害され、認知機能低下、うつ、睡眠障害、動脈硬化が進行しやすく、さらに生理的日内血圧変動が無くなり心血管イベントが発症しやすくなる、など多く病気の誘因となります。「もっと光を！」。しかし紫外線などの問題もあり、日中眩しいほどの日差しの中にいる必要は全く無くって、木陰でも十分な光の量が得られるようです。

もう一つの話題「AI」ですが、将来眼科領域でも検診などに「AI」が入って来る可能性が高いと思います。「AI」がうまく導入されて医師の負担が軽減し、患者さんにもその利益を還元できるようになればいいなと「AI」に期待しますが、より一層、眼科「医師」としての専門性が問われるようになるかもしれません。これから医師過剰時代がやってくると言われます。医師として、眼科医として、の立ち位置も変わってくるかもしれませんね。

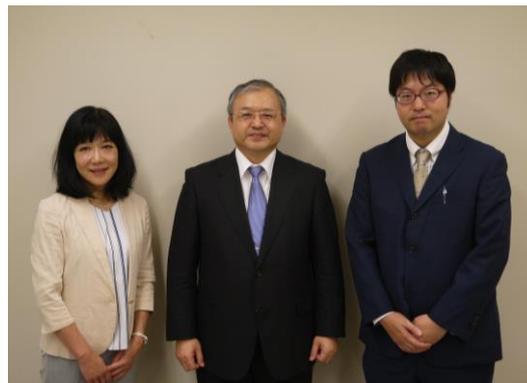
## 講演会

### 第11回RETINAフォーラム

令和元年6月21日に第11回RETINAフォーラムが巖櫃会館にて開催されました。一般講演として当大学眼科学教室助教辻中大生先生に米国 Johns Hopkins University 留学での研究について【網膜血管に対するトランスレーショなるリサーチ】と題してお話頂きました。



ご講演中の富山大学教授林篤志先生



緒方・林先生・辻中

特別講演では、富山大学医学薬学研究部眼科学講座教授林篤志先生に【黄斑疾患の新しい検査と治療】についてお話頂きました。新たな観点からお話頂き大変勉強になりました。来年7月に、第37回日本眼循環学会が富山で開催されますので奮ってご参加ください。

### 第18回奈良県眼科万葉フォーラム

令和元年10月5日に橿原ロイヤルホテルにて第18回奈良県眼科万葉フォーラムが開催されました。いつも同窓会の先生方には多数ご参加頂き誠に有難うございます。

今回は特別講演として前眼部編と後眼部編にわけてお届けしました。



ご講演中の愛媛大学教授白石敦先生

前眼部編は、愛媛大学医学部眼科教授白石敦先生に、【瞬目による摩擦を考える—関連疾患とその病態—】についてお話頂きました。瞬きをするたびに発生する摩擦の要因分類と亢進する原因、眼瞼圧の測定と疾患へのアプローチ方法をわかりやすくご講演頂きました。



ご講演中の聖隷浜松病院尾花明先生

後眼部編は、聖隷浜松病院眼科部長尾花明先生に、【AMDの予防と抗VEGF治療】について、聖隷浜松病院における、日々のAMD診療の現状から予防に有効な最新のサプリメントの知見までをお話頂きました。基礎から臨床まで、明日の診療に役立つ講演で大変勉強になりました。

講演の後は、懇親会にて歓談しながら、和やかに終了しました。ご出席頂いた先生方、誠にありがとうございました。

次回、2020年5月23日(土)第19回フォーラムは、大分大学教授久保田敏昭先生と大阪大学講師三木篤也先生をお招きする予定です。皆様奮ってご参加ください。

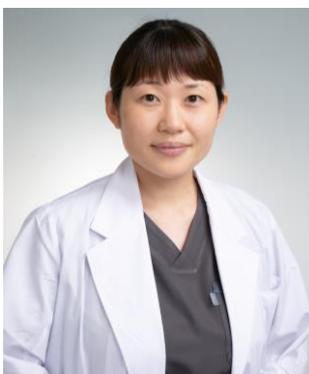


白石先生・緒方先生・尾花先生・近大奈良病院 福田昌彦先生

## 異動の報告

大学では、岡部先生が産休から復帰されましたので報告させていただきます。

平成29年入局 岡部 直子



2019年6月に産休から復帰し、大学で勤務しています。

働きやすい環境を整えてくださった緒方教授、温かく迎えてくださった職場の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。

母親と医師の両立は想像と違うことだらけですが、楽しみながら頑張っていきたいと思っております。これからも日々精進していきたいと思っておりますので、今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

## 学会の報告

緒方教授が EURETINA に参加されましたので報告させていただきます。

19th EURETINA Congress Paris

教授 緒方奈保子

9月5—8日、パリで開催された EURETINA に参加してきました。思ったよりも暑くて、トランクに入れた防寒具が全く無用でした。会場は中心地をちょっと外れたところでしたが、地下鉄のアクセスが良く、オペラ座近くのホテルからでも楽に学会場まで通えました。

ポスターは全て e-Poster で、広い学会場でしたがあちこちに e-Poster のブースがあり、待たずに見ることができました。講演会場での討論も活発で、日本の学会では見られないような討論場面もありました。器械展示場は広すぎて迷子になりそうでしたが 3D vitrectomy の装置が人気でした。

モネの庭園



が整備されています。地下鉄で何度か乗り換えをして移動し、夜 iPhone で確認すると、23,593 歩 27 階という恐ろしい数字が出ていました。足が棒になりました。



e-Poster コーナー

せっかくのパリでしたので、定番のルーブル美術館でモナリザにお目にかかり、半日はちょっと遠出してモネの庭園を見に行きました。お天気もよく素晴らしい眺めでした。

今回、移動には主に地下鉄を使っていたのですが、日本と比べて地下ホームへの降り口や乗り換えの階段付近にはエスカレーターが少なく、エレベーターはほぼ見かけませんでした。ほとんどが階段で、通路にも細かい階段や段差が多く、バリアフリーとは程遠いパリの地下鉄でした。日本の方がよっぽどバリアフリー

第 36 回眼循環学会に出席して

平成 14 年入局 西 智

令和元年 7 月 19 日に、北海道の札幌市で開催された第 36 回眼循環学会に緒方教授とともに、参加してきました。飛行機が視界不良で関空へ引き返すかもしれないというアナウンスにドキドキしながらの空の旅でしたが、無事に着くことができ、ほっとしました。夏は北海道の道東地方では霧がかかりやすいとのことで、新千歳空港の辺りまでも霧がかかることがあるそうです。

(帰宅後すぐのプラタモリで霧の摩周湖とともに解説してくれていました。)

学会では、網脈絡膜循環 update と題したシンポジウムの中で視機能と脈絡膜についてのお話をさせて頂きました。小児の遠視性不同視弱視眼に対する 1 年間の眼鏡治療による脈絡膜構造の変化についての発表です。弱視眼の脈絡膜構造は、眼鏡治療により管腔成分が減少し、間質成分が増加することで、正常眼の構造に近づく傾向にあることを報告しました。学会長の北海道大学石田晋教授には、発表に関する質問をして頂き、またこの貴重な経験を与えてくださり大変感謝しております。座長の労をお取りくださった飯田知弘教授、石龍鉄樹教授に重ねて御礼申し上げます。今後も研究を更に続けていこうという意志を新たにさせて頂けた発表でした。OCT anangiography

に関する発表も多く、大変興味深く有意義な学会を経験し、大満足しながら味噌ラーメンを食べて帰路につきました。



北海道庁旧本庁舎



ラベンダーも咲いていました

### 第73回日本臨床眼科学会～Peter先生をお迎えして～

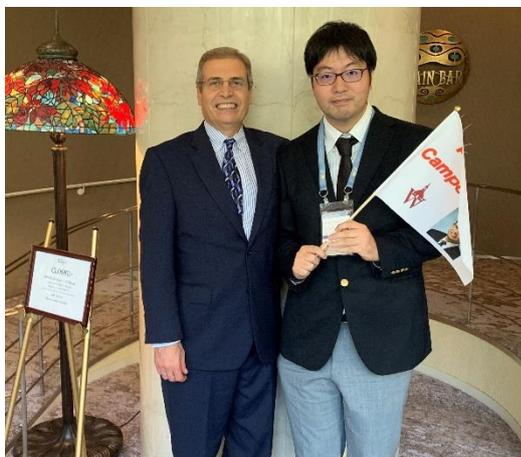
平成22年入局 辻中 大生

思いもかけない高速道路の渋滞に巻き込まれ、まさかの遅刻をしかけながら、ギリギリたどり着いた伊丹空港で、Peter先生のお元気そうなお顔を拝見できた時は、懐かしさというより、ほっとした感じがあったことを覚えております。留学先の Johns Hopkins University から奈良医大に帰って、半年。Peter A. Campochiaro 先生の臨床眼科学会での特別招待講演の準備に奔走しておられた滋賀医大の西信准教授よりご連絡があり、Peter先生を空港からホテルまでお送りし、そしてその後に行われた学会の特別講演に参加させていただくことができました。特別講演では、私がアメリカにいた時に行っていた研究のデータがいろいろ



緒方教授・Peter先生

と出ており、ある意味自分が行う発表よりも緊張しました。Peterラボには私を含め延べ36人の日本人が留学しており、特別講演の後に行われた同窓会は、日本の眼科のトップリーダーたちが集結しており、改めてPeter先生の偉大さを感じた瞬間でした。そんなPeter先生ですが、多忙の合間を縫って、毎週ある曜日の午後、仕事を早めに切り上げてお孫さんの幼稚園の送り迎えに行かれているとのこと。そして娘さんが帰宅するまで自宅でお孫さんと一緒に遊んでらっしゃる



Peter先生・辻中

そうです。日本でもワークライフバランスについてやっと意識改革が始まったところかとは思いますが、臨床も、研究も、家庭も大切にされているPeter先生のような生き方が素晴らしいです、と感想を述べたところ、「僕をサポートしてくれるたくさんの方がいて、僕はラッキーだったんだね。」とのこと。なんて男前なんだ！一歩でもこんな人に近づきたいと思える人に出会えた僕もラッキーです。これからも、留学中に教えていただいたことを忘れず、臨床に、研究に、そして家庭に邁進してまいります。

## 論文掲載

講師の吉川匡宣先生の論文がアクセプトされましたので、ご報告頂きます。

### ①Circulation Journal. 2019;83(10):2044-2048.

一般高齢者における白内障と動脈硬化の関連：平城京コホートスタディ横断解析

#### Cataracts and Subclinical Carotid Atherosclerosis in Older Adults - A Cross-Sectional Study of the HEIJO-KYO Cohort.

吉川匡宣 1)、大林賢史 2)、宮田季美恵 1)、西智 1)、上田哲生 1)、車谷典男 2)、佐伯圭吾 2)、緒方奈保子 1)

1) 奈良県立医科大学 眼科学講座 2) 奈良県立医科大学 疫学予防医学講座

白内障患者では生体リズム同調に必要な網膜への光刺激が減少することで、生体リズム障害を生じている可能性がある。また夜間交替勤務者に見られる生体リズムの同調不良は、睡眠障害、高血圧、糖尿病などの動脈硬化危険因子に関与していることが報告されている。白内障による生体リズム障害が動脈硬化に関与する可能性が考えられるが、白内障と動脈硬化の関連を検討した大規模な研究はない。

地域住民を対象とした平城京コホート研究の参加者 442 名において、白内障と動脈硬化の関連を横断解析した。白内障は前眼部写真から既報に基づき評価を行い 2 群に分けた。動脈硬化は頸動脈の内膜中膜複合体厚で評価した。

その結果、年齢・性別・喫煙等の既知の交絡因子を調整した多変量解析で、白内障あり群 (n=157) は、なし群 (n=285) と比較して最大内膜中膜複合体厚が 0.07mm 厚く、また動脈硬化のオッズ比 (1.78) が有意に高かった。結論、白内障は既知の交絡因子とは独立して動脈硬化と関連している可能性が示唆された。

### ②Ophthalmology. 2019;126:1366-1371.

緑内障患者における夜間血圧の上昇：LIGHT study

#### Increased Nighttime Blood Pressure in Patients with Glaucoma: Cross-sectional Analysis of the LIGHT Study.

吉川匡宣 1)、大林賢史 2)、宮田季美恵 1)、上田哲生 1)、佐伯圭吾 2)、緒方奈保子 1)

1) 奈良県立医科大学 眼科学講座 2) 奈良県立医科大学 疫学予防医学講座

これまでに緑内障進行と夜間血圧との関連が報告されている。しかしながらコントロールと比較した緑内障患者での夜間血圧は不明であった。夜間血圧は日中血圧よりも心血管イベントや死亡の予測因子として重要であり本研究を計画した。

今回我々は奈良医大通院中の緑内障患者 109 名 (平均年齢 71.0 歳) と地域住民対象の平城京スタディ参加者のうち緑内障を除外したコントロール 708 名 (70.8 歳) に対して 24 時間連続血圧測定 (2 日間) を行い、緑内障と夜間血圧の関連について横断解析した。その結果、年齢・肥満・糖尿病などの既知の交絡因子で調整した多変量解析で、コントロール群と比較して緑内障群で夜間血圧が有意に高値であった (4.1mmHg [緑内障群とコントロール群の差],  $p=0.01$ , 95%信頼区間 1.0-7.2)。結論、緑内障患者では年齢・肥満・糖尿病等とは独立して夜間血圧の上昇を認めた。緑内障患者では夜間血圧が上昇し、心血管イベントや死亡が生じやすい可能性が示唆された。

## メディア情報

### NHK「クローズアップ現代」での研究業績の紹介について

2019年11月7日放送のNHK「クローズアップ現代」で当教室の研究業績が紹介されました。クローズアップ現代は1993年に開始された報道番組（火・水・木曜の22時から22時30分）で、社会の世相問題や最近のトレンドなど様々な内容で放送されています。

世界的に近視の有病率は増加しており、2015年にNatureでThe myopia boom<sup>1)</sup>として取り上げられています。今回の放送は「近視の常識が変わる？」というタイトルで、大野京子先生（東京医科歯科大学）をコメンテーターとして迎え近視に関する諸問題、諸外国での最近の治療や取り組み（小学生に対する低濃度アトロピン点眼や屋外活動の奨励）が取り上げられました<sup>2)</sup>。

近視は緑内障・網膜剥離・近視性黄斑症の発症リスク（それぞれ3.3倍、21.5倍、40.6倍）が高いため視力低下をきたす事が多いとされています。視力低下は眼だけの問題ではなく、認知機能障害にも影響する可能性があるという報告<sup>3)</sup>を当教室の峯先生・緒方教授らのグループが報告しており、近視は視力低下を介して認知機能障害・うつ症状・睡眠障害等にも関連するのかもしれませんが。本放送の中で緒方教授は視力低下と認知機能障害の関連について解説されました。

1. Dolgin E. The myopia boom. Nature. 2015. 19;519:276-8.

2. [https://www.nhk.or.jp/kenko/atc\\_1090.html](https://www.nhk.or.jp/kenko/atc_1090.html) (QRコード)

Mine M, Ogata N et al. Association of Visual Acuity and Cognitive Impairment in Older Individuals: Fujiwara-kyo Eye Study.

Biores Open Access. 2016. 1;5:228



### 今後の予定

2020年5月23日(土) 第19回奈良県万葉フォーラム THE KASHIHARA

2020年5月31日(日) 第5回NORSの会 マリオット都ホテル大阪

2020年7月5日(日) 奈良医大眼科同窓会 シェラトン都ホテル大阪

2020年9月17日(木) 第8回奈良県眼科まほろばフォーラム ホテル日航奈良

2020年9月19日(土) 第20回奈良県眼科万葉フォーラム THE KASHIHARA

日本各地のご高名な先生方をお招きし、最新の知見を得る絶好の機会です。医師はもちろん、研修医・ORTの皆様の参加を心よりお待ちしております。詳しくは、教室ホームページをご覧ください。

## 外来診察表

		月	火	水	木	金
1診	午前	西	上田	手術日	緒方	手術日
	午後	小児・神経眼科外来	網膜硝子体外来	専門外来	網膜硝子体外来	専門外来
2診	午前	後岡	大熊(第1・3)	手術日	吉川	手術日
	午後	網膜硝子体外来	小児・黄斑外来	専門外来	緑内障外来	専門外来
3診	午前	竹内	宮田	手術日	辻中	手術日
	午後	竹内	緑内障外来	専門外来	角膜外来	専門外来
4診	午前	伴	中尾	手術日	小林(第1・3・5) 峯(第2・4)	手術日
	午後	伴	黄斑外来	専門外来		専門外来
5診	午前	鴻池	治村	手術日	平井	手術日
	午後	鴻池	治村	専門外来	平井	専門外来
6診	午前		岡部			
	午後		岡部			

- ・専門外来は完全予約制です。
- ・初診の場合はまず、月・火・木の外来を受診するようお願い致します。
- ・地域連携の予約は月が6名、火・木が8名、水・金は5名可能となっております。

## 編集後記

平素は奈良県立医科大学眼科学教室の運営にお力添え頂き、誠に有難うございます。ニュースレターは、今回で18回目の発行となりました。令和元年ということで、正倉院展が今年は、奈良県と東京都の国立博物館で同時開催されました。私は、ほぼ毎年正倉院展を訪れているのですが、今年は鳥毛立女屏風を奈良県で4扇、東京都で2扇同時期に拝見することができ、大変感動しました。東京の上野では、正倉院展の他にも上野の森美術館でゴッホ展、国立西洋美術館でハプスブルグ展が開催されており、大賑わいでした。芸術の秋ですね。ニュースレターでは引き続き、同窓会の諸先生方からのご投稿をお待ちしております。先生が日頃感じておられることや、趣味のお話など、どのような内容でも結構です。ご投稿、ご質問などは下記メールアドレスまでよろしくお願い致します。

tomon@naramed-u.ac.jp 奈良県立医科大学 眼科 西 智